

宇賀神 友弥 選手・ンドカ チャールス 選手の紹介



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
30

うがじん ともや
宇賀神 友弥 選手
MF 34歳

埼玉県戸田市出身、男3人兄弟の真ん中で育ちました。宇賀神選手と言えば浦和レッズ、大学卒業後12年間J1の浦和レッズ一筋で293試合に出場し、その間に天皇杯2回、ルヴァンカップ1回、ACLで1回のタイトルを獲得しました。今シーズン人のご縁と今まで取れなかったJリーグ戦優勝タイトル獲得への貢献の為、FC岐阜への加入を決断しました。人のご縁は、中学高校時代に浦和レッズアカデミーの同級生であった小松裕志氏がFC岐阜の社長に、その時代からお世話になった山道チーム統括本部長や野崎コンディショニング・スーパーバイザーがそれぞれ就任し、FC岐阜で共に昇格のための力になりたいと決意しました。

Jリーグ優勝タイトルは長丁場の戦いとなり簡単ではありませんが、まずは今年のJ3優勝に向けて、これからの長く苦しい思いを乗り切った先にある大きな喜びをファン・サポーターやスポンサーの皆様と一緒に実現しようと決意しています。

信条は『努力』で、自分ではサッカーの才能はなかったと思っているが、山道さんや野崎さんをはじめとする方々のご指導と自身の日々の努力でここまでやって来れたと思っています。

故郷の戸田市では“エスフォル”(ポルトガル語で努力)というサッカースクールを運営していますが、これは努力を体現してもらうため、サッカーを教えるのみならず、一人の人間として成長するように、礼儀礼節から始まって人として当たり前のことを当たり前にできるように指導しています。

これからはFC岐阜への貢献をしながら、英会話やマネジメントも勉強して、将来はクラブ経営の世界に入り、街全体が活気に溢れた精神的に豊かな街になるように総合エンターテインメント事業に取り組みたいと思っています。

ホームタウン応援大使は揖斐川町と西濃地域全般担当するので、これから街の魅力をしっかり発信していきたいと思っています。ここまで自分がやって来れたのも内助の功のお陰であると、いつも奥さんには感謝し、家では試合前にはいつもコッソリ静かに風呂掃除の励行を楽しむ努力ババでもあります。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

背番号
45

ンドカ チャールス 選手
FW 23歳

埼玉県越谷市出身、日本人の母とナイジェリア出身の父と兄と妹の5人家族。困っていることは英語が喋れないのに皆さんから一生懸命に英語で話しかけられることですが、これから英会話を身につけて国際的にも活躍できる選手になりたいと思っています。昨シーズンのプロ1年目ではY.S.C.C.横浜で6点取りましたので、今シーズンは二桁得点を目指し、まずはチームの勝利に貢献し、優勝できるように頑張ります。たとえチームが上手くいっていない時でも、自分から突破口を作って結果を出せる選手になりたいと思っていますと話すだけあって、非常に屈託のなく根気で意欲的な選手です。

好きな料理はとの問いには、お母さんの作った2日目の具材が一杯あるドロツとしたカレーと、誰もが経験したことのある懐かしいオフクロの味を素直に答えられる人物です。

最近の好きなことはとの問いには、観光スポットでない温泉でゆっくり過ごすことだそうです。岐阜には温泉が多いので是非あちこちへ足を運ぶことを推奨しました。また、ジムで体を鍛えることも大好きで長時間過ごすことも多いようです。

彼は美濃加茂市のホームタウン応援大使であり中濃地域も担当で、コロナ禍が収まってくれば、各地の温泉やジムの皆様ともお目にかかれるのを楽しみにしています。

好きな言葉は？と、中学生の時に聞かれて、思いつくままに一石二鳥と答えて、それ以来その言葉を使っているそうです。

FC岐阜には凄い選手達が一杯いるので、話を聞いたり一緒に食事をしたりする機会は大変勉強になることばかりで、時にはアドバイスも貰えることを大変うれしく思っています。

Y.S.C.C.横浜から移籍したプロ2年目の伸び盛りの選手で、諸先輩からしっかり学び取ってドンドン伸びていってほしい、ユーモアたっぷりの期待の大型選手です。